

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491500060	事業の開始年月日	平成25年10月1日
		指定年月日	平成25年10月1日
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ湯河原温々		
所在地	(〒259 -0301) 神奈川県足柄下郡湯河原町中央2-8-3		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和7年8月10日	評価結果 市町村受理日	令和7年11月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所のミッションとして「心に寄り添い利用者様に安心した居場所を作ります」 「初心を忘れず丁寧な対応と言葉で支えます」「暮らし慣れた湯河原で最後の時まで 寄り添います」この3つのミッションを心がけ日々ご利用者様達と接し、お手伝いを させて頂いております。 レクリエーション等は年間行事予定表を作成し実施、その様子はホームページや施設 より発信される通信にて毎月更新、発行しています。ミモザ通信はご家族、行政、他 事業所に配布しており外の掲示板にも施設内の様子を掲示し地域の方や来訪者の方にも お褒め頂いております。ご利用者の体調管理面では訪問診療と訪問看護で24時間連 携をとり緊急時対応もスムーズに出来る様、常に心掛けています。またスタッフのスキ ルアップの為に毎月30分研修を行っています。この研修は年間計画に基づき職員が 順番に講師になる事で、学び業務に反映させています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和7年9月30日	評価機関 評価決定日	令和7年10月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇理念の共有と実践 ・法人理念「高齢者の幸せな暮らしに貢献する」を実践するために、利用者が自宅 と同じようにのんびりと過ごし、自分のペースで生活できるよう支援している。 ◇安心安全な生活 ・家族の了解の基、転倒防止のため一部の利用者の居室に人感センサーやセンサー マットを設置している。 ・トイレ付近にも人感センサーを設置して、転倒防止に注意している。通路やトイ レ付近にセンサーライトを設置して、夜間の事故防止に努めている。 ◇地域との交流 ・地域の祭りで山車が事業所の前を通るのを利用者は毎年見学している。今年から 子供会と交流ができ、ハロウィンに子どもたちが事業所に訪問する予定になってい る。利用者から子どもたちにお菓子を手渡す予定である。 【事業所が工夫している点】 ◇手作りのリングで歩行訓練 ・廊下の端からもう一方の端まで利用者が歩行訓練するのを支援している。利用者 は、手作りしたリングを端からもう一方の端に移動させて回数を確認し、楽しみな がら続けている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ミモザ湯河原温々
ユニット名	さつきの家(1階) うめの家(2階)

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミモザ本社の理念「高齢者の幸せな暮らしに貢献する」施設理念は「心に寄り添い利用者様に安心した居場所を作ります」を管理者、職員が共有し日々実践している。	・法人理念と事業所理念を1階と2階の事務室に掲示して、職員が常に確認できるようにしている。 ・職員は、利用者が自宅と同じようにのんびりと過ごし、自分のペースで生活できるよう支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し回覧板にて地域と情報を共有し連携を取っている。外の掲示板にも行事情報などを発信している。	・自治会に加入している。今年は子供会との連携ができ、地域の子供がハロウィンで事業所に訪問し、利用者と触れ合う機会を予定している。 ・事業所の外に掲示板を設置しているので、近隣住人から事業所のパンフレットを求められることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の人々に対して外の掲示板にて季節の行事やレクリエーションの写真などを掲示し認知症の方が楽しく生活を送れている様子を発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護課や民生委員さんにも参加して頂き意見交換が出来ました。温々施設ご利用者にも参加して頂きました。	・運営推進会議は2か月に1回開催している。湯河原町介護課職員、民生委員3名、湯河原町包括支援センター職員、利用者1名、事業所4名参加している。 ・管理者からは、地域の認知症イベントに参加したい旨を伝えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	湯河原町介護課や小田原福祉課とも連携を取り、ケアサービスの更新やケアマネ交流会や町主催の介護保険事業者連絡会等参加させて頂いている。介護保険申請等にも関わらせて頂いている。	・介護保険の更新は事業所が代行している。 ・小田原福祉課から生活保護利用者のもとに年1回訪問がある。 ・行政主催の湯河原真鶴家族会に管理者が参加して、家族の認知症相談にのっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	施設職員は年2回の研修計画で身体拘束について学び、「身体拘束0作戦」を各階事務所や玄関に掲示している。また身体拘束適正化委員会にて自施設での事例について学び認識している。	・身体拘束適正化委員会は3か月に1回開催している。職員は年間の研修スケジュールに基づいて、身体拘束30分研修を年2回受講している。 ・管理者はスピーチロックや不用意な大きな声での声掛けについて注意するよう職員に伝えている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に年2回の研修計画で虐待について学び、虐待防止委員会を開催し施設職員が内容を共有している。ミモザ湯河原温々では「虐待は絶対に起こさない。」宣言を掲げている。職員は利用者に対する虐待の兆候を見逃さない様に職員同士意見を言える環境を整えている。	・虐待防止委員会は3か月に1回開催している。職員は年間の研修スケジュールに基づいて虐待防止の30分研修を年2回受講している。 ・職員は虐待に繋がらないよう、常に注意して利用者のケアを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護に関する制度の理解を深めるために日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する研修を行い理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の終結、解約、改正の場合はご利用者のご家族に不安が無いように説明し、納得したうえで署名押印の書式を交わす。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族からのご意見ご要望は職員並び外部へも反映させている。方法としては毎月の状況報告書にご意見ご要望の欄を設け返信して頂いている。	・毎月、利用者の生活の様子や事業所のイベント、状況報告書を家族に伝え、情報交換を大切にしている。居室担当職員も家族の意見や要望を聞いている。 ・家族の要望で、通院の際には利用者を事業所の車で送迎している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期的にスタッフ会議、又希望者や契約更新者には1カ月前に個別面談をしている。職員の意見や提案を運営に反映している。	・職員との定期的な面接日は決めていないが、職員から要望があれば管理者はいつでも対応している。 ・毎月1回のスタッフ会議にて、職員から2階に機械浴を設置して欲しいとの意見があり、管理者が本社と調整している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経験や資格等の実績や勤務状況を考慮しスキル手当も充実し各自が向上心を持ち資格所得も推奨している。	・人事評価制度を取り入れている。 職員は自己評価を管理者に提出し、管理者は各職員の勤務状況を本社に説明している。 ・実務者研修やケアマネ更新、また介護福祉士や福祉関係等の費用は補助がある。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミモザ株式会社の社是が「人を育てる」であることから社外研修も充実している。30分研修も必然的に年間計画で行っている。講師も職員が担当して自主的にスキルアップしていく仕組みになっている。	・年間計画表を基に職場30分研修を月2回以上実施し、研修の講師は職員が輪番で務めることで、内容を深く理解して日々のケアに活用できるようにしている。 ・本社でも研修があり、希望者は積極的に参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ミモザ社内では週1回エリア内の情報共有を行っている。外部では行政が行う管理者交流会やケアマネ交流会に参加し同業者との連携を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始する時にはご本人及びご家族の要望や希望に沿っていくこと。不安な事を聞き取り解決していくようにし、信頼関係を構築するように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの開始時には必ず家族が困っている事や要望を聞き取り、施設でのサービス内容を説明し不安を軽減し、信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族が必要としているサービスを見極め支援していく事に務めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者はお客様と言う立場を保ちつつ、介護される側だけでなく暮らしを共にする同士の関係を築いている。洗濯物たたみやテーブル拭き、他利用者へのアルコール消毒のお手伝い等を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も本人と同様に本人との絆を大切にしてくれるように支援していく。面会時間も制限していたが、少しずつ緩和する方向で変更されている。毎月生活状況報告書やミモザ通信を郵送している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの関係の友人や隣人との面会、手紙や電話での取次も行い関係性が途切れないように支援している。	・管理者は家族の面会時には、タブレットにて動画や写真で利用者の状況を説明している。 ・家族からの電話を取り次いだり、手紙の返事を出すのを手伝っている。携帯電話を利用している利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間、トランプ仲間など隣同士にしたり会話が苦手な方の間に職員が入りコミュニケーションをとり支援をしている。1人1人が孤立しないよう気配りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもこれまでの関係性を大切に必要に応じてその後の相談や経過報告し、状況の把握に努める。またその後の相談や支援も行う。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや希望を聞き、暮らし方の向上に努めている。困難な場合はなるべく近づける様に支援している。	・日々の会話や仕草から利用者の気持ちを把握するようにしている。 ・利用者からは食の希望が多く、おやつレクリエーションでデコレーションケーキ等提供している。毎日のおやつは、利用者に尋ねて業者に依頼している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や趣味を聞き取り提供できるように努めている。塗り絵やクイズ、頭の体操等を提供したりグループでレクリエーションを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日のお過ごし方を把握し心身状態が穏やかに過ごせるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でケアの方針や現状を情報共有し介護計画に反映させている。	・短期計画6か月、長期計画1年と介護計画を作成している。 ・フロア会議にて、ケアマネジャーと職員でモニタリングとアセスメントを行っている。モニタリングの結果、利用者に変化があればその都度介護計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果気づきや工夫を個別に記録し職員間で情報共有している。その時々に見えるニーズを把握しケアプランを変更している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない柔軟な支援や対応をしている。その時々に見えるニーズを把握しケアプランを変更している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し個々が心身の力を発揮し、安全で豊かな暮らしを楽しむことができる様に支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療・訪問看護を隔週に受診し健康状態や変化を素早く判断でき適切な医療を受けられるように支援している。また緊急時は24時間対応が可能で指示を受けることができる。	・家族の同意を得て全利用者が事業所の協力医をかかりつけ医とし、訪問診療を受けている。協力医療機関の訪問看護もあり、利用者の体調管理に生かしている。 ・通院は原則家族対応だが、職員同行も柔軟に対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との連携も取れている。 ご利用者の体調管理を行い、急変の対応や応急処置を行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は安心して治療ができ、早期退院に向けて病院関係者と連携を取り合い情報共有している。退院後は看護サマリーの元に同様の支援を受けれる様にしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化看取りに関しては入居契約時に説明と同意書を交わしている。医療関係者と連携をとり情報を共有、支援を行っている。	・入居時に「重度化対応・看取り介護指針」を説明し、同意を得ている。利用者の状態変化に伴い、医師と家族を交えたカンファレンスを開き、対応を議論している。 ・開設からこれまで看取りの実績は年に数例ある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に備えて、緊急連絡網は事務所の目につきやすい場所に貼っている。緊急時マニュアルは定期的に30分研修で職員全員に周知徹底している。実践にも役立っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。避難場所も、訓練や研修等行い職員に周知徹底している。夜間想定や地震、火災など想定し計画実行している。	・年2回の避難訓練の1回は消防署の協力を得ている。1回は夜間想定 of 自主訓練をしている。 ・業務継続計画については、必要に応じた見直しの予定がある。 ・飲料水や食料等の備蓄品は1階と2階で分散保管をしている。	・災害時に必要な備蓄品について、保管場所、数量、賞味期限など、リストを作成することで、さらに適正な保管管理につなげることが望まれます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けています。特に接遇に関する研修を行い不適切な言動があれば個々に教育している。	・30分研修で、接遇・認知症理解・個人情報保護など年間計画に基づいた学ぶ機会があり、職員は理解や意識を深めている。 ・職員は、一人ひとりの生活歴や性格を把握し、その人のその時々々の感情に合わせた対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご利用者が自己決定出来る様に働きかけている。本人の思いや希望を表しやすくする環境づくりも支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活がその人らしい暮らしの延長戦上にある様に、どのように過ごしたいか希望を導いて支援する。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい好みの身だしなみやおしゃれが出来る様に支援する。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好みや好き嫌い、量や形態把握し提供している。青魚禁のご利用者には代替品を提供している。出来る方にはお盆やテーブル拭きをお手伝いして頂いている。	・おかずは委託業者の湯煎品だが、主食と汁物は職員が作っている。 ・行事食や誕生日のお祝い食では、利用者の好みを提供している。 ・夏祭りでは縁日らしい食べ物（焼きそば・ウインナー焼き）やスイカ割りを楽しんだ。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量は その都度記録している。1日の摂取 量が一目で分かる様に検温表に記録 している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアも行い、出来ない 方は職員が介助している。週1回の 訪問歯科で治療や洗浄を行っている。 無料歯科検診をほとんどの方は 受けて頂いている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間 ごとに誘導の声掛けを行っている。 車椅子の方にも出来る方には見守 り、出来ない方には自立支援を行っ ている。	・トイレでの排泄を基本として支援 をしている。夜間帯も、おむつ対応 以外の利用者は、職員が声掛けをし てトイレに誘導している。 ・本人に合った職員の適切な支援で 利用者一人ひとりの現状維持を保つ よう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には水分を多めにしたり、 腹部マッサージを行う。3日出ない 時は医師の指示に従い処方通りに行 う。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週2回入っていただいている。 拒否がある場合は無理強いせず、 臨機応変に他者と交代したりして 対応している。職員はゆっくり着 脱入浴介助を行い利用者の全身観察 を行い異変あれば報告している。	・週2回の入浴支援をしている。 ・機械浴もできるが、浴槽が跨ぎづ らくなった場合は安全面を考慮し て、シャワー浴対応をしている。 ・個人専用のシャンプーやボディ ソープを使用して、その人の肌質に 合うようにしたり、好みの香りを楽 しめるようにしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望に沿った生活パターンを把握し提供している。日中はリビングで過ごされたりお昼寝されたりしている。利用者の状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況を確認し内服薬の効果や副作用を理解している。訪問診療時には医師に状況を伝えている。毎食後の投薬は職員が管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレクリエーションなど年間行事を作成し実施している。出来る限り全員参加型の行事を工夫し提供している。各リビングには毎月行事の写真を貼り出したり季節感溢れる装飾をしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染やインフルエンザ対策も緩和し、お天気の良い日は玄関先で日光を浴びている。家族との外部受診やご自宅への外出に関わる方もいる。	・利用者の事業所周辺での散歩や外気浴を支援している。 ・コロナ禍や利用者の状態変化により、皆での外出が難しくなっているが、11月に紅葉狩りの予定がある。 ・個別の外出に関しては、家族の協力を得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本お金は持たせていません。貴重品は入居時に持ち込まないように説明している。金銭管理は施設での立替えを基本としているが、預かり金の方もいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人との電話の取次ぎやお手紙のやりとりが出来る様に支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は毎日清掃している。ご利用者に不快な環境を与えないように配慮している。その都度季節感を出す工夫をしている。玄関、リビング、階段等に季節ごとの飾りつけをしている。	・清掃や整理整頓が行き届き、清潔感がある空間になっている。空調は利用者の体感に合わせている。リビングでは趣味が一緒の利用者同士で制作にいそしんだり、同空間の中でも一人だけの時間を過ごしたりと思いいい思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の居場所を提供している。席順も気の合う合わない方を考慮している。テーブルの配置も変えたり工夫をしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大事にしている仏壇や使い慣れた物を飾ったり、カレンダーを貼ったり居心地よく過ごせる様に支援している。使い慣れた椅子など持ってくる方もいる。	・介護ベッドを含む事業所の備え付けのほか、退去者が残っていたものも活用している。 ・利用者はタンス、家族の写真、本人の趣味の作品など持ち込んだり、飾ったりしている。ベッドは利用者の動線に合わせて配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心安全な環境で生活出来る様に支援している。バリアフリーで手すりがあり歩行や立ち上がり移動が安全に出来る様支援している。		

事業所名	ミモザ湯河原温々
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過させている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミモザ本社の理念「高齢者の幸せな暮らしに貢献する」施設理念は「心に寄り添い利用者様に安心した居場所を作ります」を管理者、職員が共有し日々実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し回覧板にて地域と情報を共有し連携を取っている。外の掲示板にも行事情報などを発信している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の人々に対して外の掲示板にて季節の行事やレクリエーションの写真などを掲示し認知症の方が楽しく生活を送れている様子を発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護課や民生委員さんにも参加して頂き意見交換が出来ました。温々施設ご利用者にも参加して頂きました。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	湯河原町介護課や小田原福祉課とも連携を取り、ケアサービスの更新やケアマネ交流会や町主催の介護保険事業者連絡会等参加させて頂いている。介護保険申請等にも関わらせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	施設職員は年2回の研修計画で身体拘束について学び、「身体拘束0作戦」を各階事務所や玄関に掲示している。また身体拘束適正化委員会にて自施設での事例について学び認識している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に年2回の研修計画で虐待について学び、虐待防止委員会を開催し施設職員が内容を共有している。ミモザ湯河原温々では「虐待は絶対に起こさない。」宣言を掲げている。職員は利用者に対する虐待の兆候を見逃さない様に職員同士意見を言える環境を整えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護に関する制度の理解を深めるために日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する研修を行い理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の終結、解約、改正の場合はご利用者のご家族に不安が無いように説明し、納得したうえで署名押印の書式を交わす。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族からのご意見ご要望は職員並び外部へも反映させている。方法としては毎月の状況報告書にご意見ご要望の欄を設け返信して頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期的にスタッフ会議、又希望者や契約更新者には1カ月前に個別面談をしている。職員の意見や提案を運営に反映している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経験や資格等の実績や勤務状況を考慮しスキル手当も充実し各自が向上心を持ち資格所得も推奨している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミモザ株式会社の社是が「人を育てる」であることから社外研修も充実している。30分研修も必然的に年間計画で行っている。講師も職員が担当して自主的にスキルアップしていく仕組みになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ミモザ社内では週1回エリア内の情報共有を行っている。外部では行政が行う管理者交流会やケアマネ交流会に参加し同業者との連携を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始する時にはご本人及びご家族の要望や希望に沿っていくこと。不安な事を聞き取り解決していくようにし、信頼関係を構築するように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの開始時には必ず家族が困っている事や要望を聞き取り、施設でのサービス内容を説明し不安を軽減し、信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族が必要としているサービスを見極め支援していく事に務めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者はお客様と言う立場を保ちつつ、介護される側だけでなく暮らしを共にする同士の関係を築いている。洗濯物たたみやテーブル拭き、他利用者へのアルコール消毒のお手伝い等を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も本人と同様に本人との絆を大切にしていけるように支援していく。面会時間も制限していたが、少しずつ緩和する方向で変更されている。毎月生活状況報告書やミモザ通信を郵送している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの関係の友人や隣人との面会、手紙や電話での取次も行い関係性が途切れないように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間、トランプ仲間など隣同士にしたり会話が苦手な方の間に職員が入りコミュニケーションをとり支援をしている。1人1人が孤立しないよう気配りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもこれまでの関係性を大切に必要に応じてその後の相談や経過報告し、状況の把握に努める。またその後の相談や支援も行う。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや希望を聞き、暮らし方の向上に努めている。困難な場合はなるべく近づける様に支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や趣味を聞き取り提供できるように努めている。塗り絵やクイズ、頭の体操等を提供したりグループでレクリエーションを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日のお過ごし方を把握し心身状態が穏やかに過ごせるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でケアの方針や現状を情報共有し介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果気づきや工夫を個別に記録し職員間で情報共有している。その時々に見れるニーズを把握しケアプランを変更している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見れるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない柔軟な支援や対応をしている。その時々に見れるニーズを把握しケアプランを変更している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し個々が心身の力を発揮し、安全で豊かな暮らしを楽しむことができる様に支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療・訪問看護を隔週に受診し健康状態や変化を素早く判断でき適切な医療を受けられるように支援している。また緊急時は24時間対応可能で指示を受けることができる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との連携も取れている。 ご利用者の体調管理を行い、急変の対応や応急処置を行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は安心して治療ができ、早期退院に向けて病院関係者と連携を取り合い情報共有している。退院後は看護サマリーの元に同様の支援を受けれる様にしていく。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化看取りに関しては入居契約時に説明と同意書を交わしている。医療関係者と連携をとり情報を共有、支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に備えて、緊急連絡網は事務所の目につきやすい場所に貼っている。緊急時マニュアルは定期的に30分研修で職員全員に周知徹底している。実践にも役立っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。避難場所も、訓練や研修等行い職員に周知徹底している。夜間想定や地震、火災など想定し計画実行している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けています。特に接遇に関する研修を行い不適切な言動があれば個々に教育している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご利用者が自己決定出来る様に働きかけている。本人の思いや希望を表しやすくする環境づくりも支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活がその人らしい暮らしの延長戦上にある様に、どのように過ごしたいか希望を導いて支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい好みの身だしなみやおしゃれが出来る様に支援する。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好みや好き嫌い、量や形態把握し提供している。青魚禁のご利用者には代替品を提供している。出来る方にはお盆やテーブル拭きをお手伝いして頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量は都度記録している。1日の摂取量が一目で分かる様に検温表に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアも行い、出来ない方は職員が介助している。週1回の訪問歯科で治療や洗浄を行っている。無料歯科検診をほとんどの方は受けて頂いている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間ごとに誘導の声掛けを行っている。車椅子の方にも出来る方には見守り、出来ない方には自立支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には水分を多めにしたり、腹部マッサージを行う。3日出ない時は医師の指示に従い処方通りを行う。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週2回入っていただいている。拒否がある場合は無理強いせず、臨機応変に他者と交代したりして対応している。職員はゆっくり着脱入浴介助を行い利用者の全身観察を行い異変あれば報告している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望に沿った生活パターンを把握し提供している。日中はリビングで過ごされたりお昼寝されたりしている。利用者の状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況を確認し内服薬の効果や副作用を理解している。訪問診療時には医師に状況を伝えている。毎食後の投薬は職員が管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレクリエーションなど年間行事を作成し実施している。出来る限り全員参加型の行事を工夫し提供している。各リビングには毎月行事の写真を貼り出したり季節感溢れる装飾をしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染やインフルエンザ対策も緩和し、お天気の良い日は玄関先で日光を浴びている。家族との外部受診やご自宅への外出に関わる方もいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本お金は持たせていません。貴重品は入居時に持ち込まないように説明している。金銭管理は施設での立替えを基本としているが、預かり金の方もいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人との電話の取次ぎやお手紙のやりとりが出来る様に支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は毎日清掃している。ご利用者に不快な環境を与えないように配慮している。その都度季節感を出す工夫をしている。玄関、リビング、階段等に季節ごとの飾りつけをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の居場所を提供している。席順も気の合う合わない方を考慮している。テーブルの配置も変えたり工夫をしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大事にしている仏壇や使い慣れた物を飾ったり、カレンダーを貼ったり居心地よく過ごせる様に支援している。使い慣れた椅子など持って来る方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心安全な環境で生活出来る様に支援している。バリアフリーで手すりがあり歩行や立ち上がり移動が安全に出来る様支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ミモザ湯河原温々

作成日 令和7年10月31日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	14	ご利用者緊急時対応の流れ、救急搬送時の職員の確保が十分でない。	緊急時に対しての職員の迅速な対応と、救急搬送時の流れや人員確保を改めて確認していく。	施設緊急時のマニュアル作成と救急搬送時の基本となる人員確保を構築する。	2ヶ月
2	16	災害時に必要な備蓄品について場所、数量、賞味期限等が分かりづらい。	リスト作成により適切な保管管理が出来るようになる。	備蓄品の確認とリスト作成。新たな保管場所の検討と確保、管理する。	3ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。